三重北小学校

全国体力・運動能力調査の結果に見られるように、子どもの体力の低下が危惧されている。市内各校でも、子どもが意欲的に運動に取り組めるよう５分間運動を始めとした授業の工夫がなされている。今回は三重北小学校の「投げ方」の授業を訪れた。自校の子どもの状況を分析し、全職員が同僚性を発揮して授業づくりや運動遊びの活性化に取り組んでいる様子がうかがえた。

後方に見えるのが的の数々。段階を追った指導の先に、大きな達成感が。

１　授業の冒頭から引き込む

体育館に入るとテレビ番組のセットのように組まれたカラーコーンや新聞紙の的。どの学校にもある道具を使って、ワクワクする空間が演出されていた。「今日は腕をしっかり振って投げることをめあてにします」と若林教諭。授業始めの５分間運動は、新聞紙を丸め、反対側の壁まで何回で届くかを競う「新聞ゴルフ」。「夢中になって遊んでいるうちに、結果として、これから行う主運動の準備運動になったり、練習になったりすることがねらいです」と教えてくれた。授業者のねらいどおり、大きく腕を振って夢中で投げる子どもたち。授業冒頭の５分間運動で子どもたちが「投げる楽しさに満ちた世界」に引き込まれていた。夢中にさせる秘訣は、「それぞれの動きの持つ面白さ、教科の本質的な面白さを、授業を作る前に指導者がしっかりと把握すること」だそうだ。また、「６月の新体力テストのデータを分析し、弱点を克服するために投げ方や走り方の授業を行おうと、学校全体で取り組んでいます。６月からの伸びをこの１０月に計測しているわけです」とのことである。

２　聴き合う関係づくり

先生の姿勢もぴったり揃い・・

授業中、「気を付けてやったけど的に当たらん」と言う児童に、他の児童から「腕を一直線にしてみたら」「青い線をめがけたら」と意見が出る。その後、見事命中させた児童は、ガッツポーズで先生に抱きついた。酒匂教諭は「聴き合う関係づくりを大切にしています。わからないことをわからないと言える。とにかく話を『聴く』こと。その効果か、学年が変わっても、４月の２週目には落ち着いている印象です」と付け加えた。「全校で、説明文の授業をするときはできるだけ全学年で説明文。投げ方の授業をするときは全学年が投げ方、と重点的に扱う内容は揃えます。だから、ある時期は説明文の授業の話で盛り上がったり、と学年を超えて共通の話ができます」。職員室にも互いに聴き合う雰囲気が生まれる仕掛けがある。

３　今ある遊具が進化する

グランドに出ると、各遊具に、体育委員の実技写真付きで色々な遊び方が表示されていた。のぼり棒を手の力だけで上っていく写真もある。「今ある固定遊具を魅力的な場所に」というねらいから「体育委員会で考え、高学年の委員が一緒に遊んでやり方を教えています」。外遊びに行くきっかけとなっているのだそうだ。

委員会担当の横田教諭は「現段階では子どもがやりたい遊びとズレがあるような気がして・・後期の委員会では三重北の子どもたちが本当にやりたい遊びに改訂するつもりなんです」と抱負を語ってくれた。

おわりに　本冊子は四日市市の各小・中学校の教員に向けて、四日市市教育委員会指導課が取材・編集したものです。各掲載校および関係教職員の方々に多大なご協力をいただいたことを御礼申し上げます。なお、掲載内容に関して、「紹介されているワークシートを入手したい」「授業を参観したい」などの要望や問い合わせがありましたら、指導課にご連絡ください。

平成２７年１２月　四日市市教育委員会発行　　（編集担当：指導課　TEL059-354-8255）